

審査の結果の要旨

氏名 コーナ ジェーン

KOERNER Jane

本研究は滞日外国籍ゲイ・バイセクシャル男性及びレズビアン・バイセクシャル女性の HIV 感染予防行動情報のニーズを把握することと、日本国籍と外国籍ゲイ・バイセクシャル男性の国内外での HIV 感染リスクのある性行動の実態を明らかにすることを目的として、インターネット調査を実施した。分析では、調査対象者群と HIV 関連情報サービスへのアクセスなどについて単純集計、カイ二乗検定及びフィッシャーの正確確率検定、ロジスティック回帰分析を行い、また、日本国内外を移動している時と移動していない時の性行動についてマクネマー検定を用いて分析を行い、下記の結果を得ている。

1. インターネット調査協力者 244 人のうち、分析対象者として 232 人の有効回答を得た。
2. 滞日外国籍ゲイ・バイセクシャル男性群は、日本国籍ゲイ・バイセクシャル男性群と比べて日本の同性男性間の HIV 感染の現状や HIV 抗体検査やセクシャリティについての情報提供や相談を行っている団体についての認識が低いことが示された。更に、日本で HIV に関する情報を入手している割合も低かった。また、滞日外国籍ゲイ・バイセクシャル男性群が HIV に関する情報を入手していないことには HIV 抗体検査やセクシャリティについての情報提供や相談を行っている団体を知らないことや過去 1 年間に HIV について友人や知り合いと話した経験がないことが関連していた。現在、日本のゲイコミュニティが主に日本人ゲイ・バイセクシャル男性を対象に行っている HIV に関する情報提供や支援体制の対象を滞日外国籍ゲイ・バイセクシャル男性にも拡大してゆく必要性が示唆された。
3. 滞日外国籍ゲイ・バイセクシャル男性群と日本国籍ゲイ・バイセクシャル男性群の両群の生涯の HIV 抗体検査受検経験割合は同様であるが、滞日外国籍ゲイ・バイセクシャル男性群の日本での HIV 抗体検査受検経験割合は、日本国籍ゲイ・バイセクシャル男性群より低かった。
4. 移動時の性行動について、滞日外国籍ゲイ・バイセクシャル男性群で移動していない時の性行動は、移動している時と比べて活発であった。日本国籍ゲイ・バイセクシャル男性群で移動している時の性行動は、移動していない時と比べて活発であった。更に、移動している時のコンドーム使用割合は移動していない時と比べて低い傾向にあった。これらの結果から、移動している時の性行動に伴う感染リスクに対する予防対策と同時に、国外と国内において移動の性行動に対するコンドーム使用の推進も必要であることが示唆された。

以上、本論文は、滞日外国籍ゲイ・バイセクシャル男性やレズビアン・バイセクシャル女性に対して、HIV 関連情報の提供と、移動に関連する HIV 予防プログラムに焦点を当てて HIV 予防活動を行う必要を明らかにした。この結果は、日本で滞日外国籍 MSM 間の HIV 感染が年々増加しているという疫学データに対して、HIV 予防啓発行動における重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。